

PaperStream Central Admin

過去のアップデートにおける主な変更点

1.3.1 の主な変更点

以下の機能を改善しました。

1. SP-2240N に対応しました。
2. fi-8040 の DirectScan のメール送信設定にて、以下の指定が可能になりました。
 - ・認証方式: Exchange Online OAuth 2.0 認証
 - ・暗号化方式: STARTTLS※fi-8040 の Firmware バージョン”0H00”以降をご使用ください。

以下の障害を修正しました。

1. 軽微な不具合を修正しました。

1.2.0 の主な変更点

以下の機能を改善しました。

1. 異常通知メール送信にて、Exchange Online での OAuth 2.0 認証が利用可能になりました。
詳細は下記 URL をご参照ください。
<https://www.pfu.ricoh.com/fi/news/2025/info250620.html>

以下の不具合を修正しました。

1. 当製品を特定の言語版の Windows OS にインストールした場合、インストールに失敗する問題を修正しました。

1.1.1 の主な変更点

以下の不具合を修正しました。

1. ヘルプファイルが以下の言語で表示されるようにしました。
 - フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、ポルトガル語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、トルコ語、アラビア語

2. ゲートコンソールの運用中、リーダーでアップデート名を変更しても、フォロワーのアップデート名が追従して変更されない不具合を修正しました。
3. ゲートコンソールの運用中、フォロワーで管理されているスキャナー/コンピューターに対して、リーダーで「エラー解除」が出来ない不具合を修正しました。
4. 一つのスキャナーグループ/コンピューターグループを複数のアップデートの適用対象に指定している場合、アップデートのうちの一つを削除すると、当スキャナーグループ/コンピューターグループが残りのアップデートの適用対象にならない不具合を修正しました。
5. その他の軽微な不具合を修正しました

1.1.0 の主な変更点

以下の機能を改善しました。

1. アップデート適用機能を強化しました
 - 複数のアップデートの適用対象に同一のスキャナーグループまたはコンピューターグループを同時に指定できるようになりました。
 - 上記の複数のアップデートの適用順番を指定できるようになりました。※ゲートコンソール経由で Scanner Central Admin Server をご利用中の方は、PaperStream Central Admin のアップデートと合わせて PaperStream Central Admin Server Option も 1.1.0 にアップデートしてください。
2. ゲートコンソールの運用中、同ースキャナーやコンピューターの連携先をリーダー、フォロワー、別フォロワーに変更した場合に発生する重複登録を選択して削除できるようにしました。

以下の不具合を修正しました。

1. ゲートコンソールの運用中、リーダーでフォロワーの Scanner Central Admin Server が管理しているスキャナーの「スキャナー詳細情報」画面から「イベント一覧」画面を開くと情報が表示されない不具合を修正しました。
2. ゲートコンソールの運用中、リーダーでゲートコンソールの設定を「使用しない」に変更した後、再度「リーダーとして使用する」にしてもフォロワーが繋がらない不具合を修正しました。
3. Scanner Central Admin Server 5.5 で、アプリケーションとデータベースが別々のコンピューターにインストールされている場合、データベースのアップデート時に、SQL Server

のインスタンス名を変更すると、アプリケーションのアップデートが失敗する不具合を修正しました。

4. スキャナーグループのアップデートを作成する際、ファームウェアに「最新版をダウンロード」を指定した場合、適用対象に以下の機種が含まれていると、ダウンロードに失敗してアップデートの作成ができない不具合を修正しました。
- fi-8190/fi-8290/fi-8170/fi-8270/fi-8150/fi-8250/fi-8150U/fi-8250U
5. PaperStream Central Admin に付属する Module Creator を使用してユーザーアプリケーションを作成する場合、モジュールの作成に失敗する不具合を修正しました。
6. PaperStream Central Admin にアップデートモジュールをアップロードする場合、モジュールのファイルサイズが 1G バイトを超えると、アップロードに失敗する不具合を修正しました。
7. 「ゲートコンソール」画面の「フォロワー一覧」で、フォロワーの Scanner Central Admin Server の「状態」が変わらない場合がある不具合を修正しました。
8. その他の軽微な不具合を修正しました。

1.0.0 の主な変更点

以下の機能を追加しました。

1. 製品名称を Scanner Central Admin Desktop から、PaperStream Central Admin に変更しました。

製品名称の変更に伴い、製品バージョンを 1.0.0 に変更しました。

2. サポートスキャナーを追加しました。
- fi-7280, fi-7260, fi-7180, fi-7160, fi-7030, fi-65F
3. PaperStream Central Admin と直接連携できるスキャナーを追加しました。
- fi-7300NX
- fi-8190, fi-8290, fi-8170, fi-8270, fi-8150, fi-8250
4. ゲートコンソール機能を追加しました。

ほかの PaperStream Central Admin や Scanner Central Admin Server で管理している
スキャナーを、1 つの PaperStream Central Admin に集約することで、最大 51000 台ま
でのスキャナーを管理することが可能になります。

5. ログイン機能を追加しました。

ローカルアカウントや、LDAP サーバーと連携したログインが可能になります。

6. スキャナーの異常をメールで管理者に通知する機能を追加しました。

7. SNMP エージェント機能を追加しました。

SNMP v1/v2c/v3 を利用可能です。

8. PaperStream Central Admin の管理画面を、任意のコンピューターのブラウザで表示
できるようにしました。

Scanner Central Admin Desktop

過去のアップデートにおける主な変更点

1.2.1 から 1.3.0 の主な変更点

以下の機能を追加しました。

1. 下記の使用方法でネットワークに接続している fi-8040 との直接連携に対応しました。
 - コンピューターに接続して使用する
 - PaperStream NX Manager に接続して使用する
2. サポート機種を追加しました。
 - fi-7900/fi-7800 に対応しました

以下の不具合を修正しました。

1. 軽微な不具合を修正しました。

1.2.0 から 1.2.1 の主な変更点

以下の機能を追加しました。

- ヘルプファイルを以下の言語に対応しました。
 - フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、ポルトガル語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、トルコ語、アラビア語

1.1.0 から 1.2.0 の主な変更点

以下の機能を追加しました。

- サポート機種を追加しました。(*1)
 - fi-7600/fi-7700/fi-7700S/fi-7460/fi-7480/fi-7300NX/fi-800R/fi-70F
 - SP-1425

*1 ご利用いただくために、Scanner Central Admin Agent 5.7.2 以降との連携が必要です。
- ダッシュボード機能を追加しました。
- スキャナーとコンピューターそれぞれの管理台数を、100 台から 1000 台に拡張しました。
- サポート言語を追加しました。
 - 中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、トルコ語、アラビア語

1.0.0 から 1.1.0 の主な変更点

以下の機能を追加しました。

- サポート機種を追加しました。
 - fi-8190/fi-8290/fi-8170/fi-8270/fi-8150/fi-8250/fi-8150U/fi-8250U (*1)
 - fi-8950/fi-8930/fi-8820 (*1)

*1 ご利用いただくために、Scanner Central Admin Agent 5.7.1 以降との連携が必要です。
- Scanner Central Admin Agent (*2) と連携して、アプリケーションの配布や、アプリケーション設定情報の配布が可能になりました。

*2 Scanner Central Admin Agent は 5.7.1 以降のバージョンをご利用ください。

以下の機能を改善しました。

1. セキュリティ強化に伴い TLS1.0/1.1 による暗号化通信を無効化しました。
TLS1.2 による暗号化通信はこれまで通り利用可能です。